

(参考様式2)

## 事前点検シート

計画主体名	出雲市		
計画期間	H24～H29	総事業費(交付金)	<del>(650,000千円(325,000千円))</del>
実施期間	H24～H27		528,600千円 264,300千円

### 1 計画全体について

項目	チェック欄	判断根拠
目標及び事業活用活性化計画目標が、農山漁村の活性化のための定住等及び地域間交流の促進に関する法律及び同法に基づき国が策定する基本方針と適合しているか	○	事業活用活性化計画目標である「地域産物(ぶどう)の販売量の増加」によって、生産者所得の安定・向上と、地域産業(流通・加工・販売)の活性化が見込まれる。新規就農者増加の効果により人口定住が進み、目標である「地域の人口減少の抑制」につながるものであり、活性化法及び基本方針に適合している。
市町村総合計画、農業振興地域整備計画、土地改良事業計画、森林・林業基本計画、特定漁港漁場整備事業計画その他各種関連制度・施策との連携、配慮、調和等が図られているか	○	出雲市総合振興計画、出雲市農業振興地域整備計画、人・農地プラン、出雲市山村振興計画、出雲市農林業等活性化基盤整備計画、出雲市農業農村整備事業管理計画と調整済みである。 なお、過去の活性化計画の達成状況については(別紙)のとおりである。
活性化計画及び交付対象事業別概要は関係農林漁業者をはじめとした地域住民等の合意形成を基礎としたものになっているか 活性化計画の策定にあたり、女性の意見や提案などを聞く機会を設けているか	○	事業計画を推進する「ぶどう産地再生プロジェクト会議」には複数の生産者を加える等、地域住民の合意のもとに計画を進めている(プロジェクト会議は24年4月～25年1月現在7回開催)。なお生産者組織である「ぶどう部会」の女性部・青年部からも、アンケート調査や説明会により意見を求めている。
事業の推進体制は確立されているか	○	島根県、出雲市、いずれも農業協同組合(H27.3～「島根県農業協同組合」)、生産者組織で構成する「ぶどう産地再生プロジェクト会議」により事業を推進している。
目標及び事業活用活性化計画目標と事業内容の整合性が確保されているか	○	遊休農地を活用しぶどうハウス団地を整備し、新規就農者を主体とする若い農業者が働く場を作ることで、出雲地域の特産物であるぶどうの販売量増加を図る。新規就農者の増加、生産者所得の向上と地域産業の活性化等により定住が促進され、人口減少の抑制につながる。
計画期間・実施期間は適切か	○	実施期間は、平成24年度から27年度の4か年とする。 24年度(H25へ繰越)0.85(1.0)ha、26年度1.46(2.0)ha、27年度1.0ha(2.0ha)計3.4(5.0)haのぶどうハウスを整備する計画である。

		3.4(5.0)haは事業対象用地として確保可能な面積である。ハウスの建設工期を踏まえ、単年度で整備可能な面積を最大2.0haと見込んでいるため、実施期間を4か年とした。 計画期間については平成24年度から29年度の6か年とする。 ぶどうは植栽4(3)年目から収穫が始まり、6(5)年目から収量が安定するため、事業の効果発現時期を考慮し、計画期間は最長の6か年とした。
交付金要望額は交付限度額（事業費×交付額算定交付率）の範囲内か	○	交付金要望額264,300千円(325,000千円)は、事業費528,600千円(650,000千円)の1/2以内である。

## 2 個別事業について

項 目	チェック欄	判 断 根 拠
自力若しくは他の助成によって実施中又は既に完了した施設等を本交付金に切り替えて交付対象とするものでないか	○	今回、新規に取り組む事業であり、計画承認をもって事業の実施手続きに入る。
増改築等若しくは合体又は古材を利用した施設整備を行う場合は、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金実施要領の運用に定める基準を満たしているか	○	増改築、合体、古材利用のいずれでもない。
交付対象とする施設等は減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第34号）別表等による耐用年数がおおむね5年以上のものであるか	○	パイプハウス：農林業用構築物（主として金属製のパイプハウス）整備であり、耐用年数は14年である。 加温設備及び灌水設備：農業用設備であり、耐用年数は7年である。
事業による効果の発現は確実に見込まれるか		
費用対効果分析の手法は適切か（農山漁村活性化プロジェクト支援交付金費用対効果算定要領（平成19年8月1日付け19企第106号農林水産省大臣官房長通知）により適切に行われているか）	○	農山漁村活性化プロジェクト支援交付金費用対効果算定要領により算定している。
上記の費用対効果分析による算定結果が1.0以上となっているか	○	投資効率は1.084-09である。
事業内容、事業実施主体等については実施要綱等に定める要件等を満たしているか	○	農山漁村活性化プロジェクト支援交付金実施要領別表 事業名：生産機械施設 事業メニュー：21 農業経営改善安定機械施設 要件類別：14 に基づき、 事業実施主体：いずれも農業協同組合 (H27.3～「島根県農業協同組合」) 対象地域：特定農山村指定地域 事業内容：リース方式パイプハウスの整備 としており、すべて要件を満たしている。 また、その他運用に定める要件及び基準をすべて満たしている。

個人に対する交付ではないか、また目的外使用のおそれがないか	○	農業協同組合に対する交付であり、当該組合が定める「施設利用管理規程」に従って使用するもので、目的外使用のおそれはない。
施設等の利活用の見通し等は適正か		
地域間交流の拠点となる施設にあっては当該地区の入り込み客数や都市との交流状況（現状と今後の見込み）を踏まえているか	－	該当無し
近隣市町村の類似施設等の賦存状況と利用状況等を踏まえているか。	○	果樹のリース方式ハウスは近隣市町村に無い。野菜・花卉のリース方式ハウスの利用状況等を参考にしている。
利用対象者、利用時期など施設の利用形態を検討しているか	○	ぶどうは植栽3年目から収穫が始まり、5年目から収量が安定することから、施設の規模を勘案し、利用計画を作成した（本市の実績から、収量は植栽4(3)年目に700(600)kg/10a、5(4)年目に1,000(960)kg/10a、6(5)年目以降1,500(1,260)kg/10aとした）。また活性化計画区域内に農林水産省の補助事業で整備した同種の施設は無い。
施設等の規模や設置場所、地域における他の施設との有機的な連携等、当該施設等の利用環境等について検討されているか	○	事業規模は、生産者に対するアンケート調査や説明会の意見、遊休農地の状況、出雲市主催の「アグリビジネススクール」修了後の新規就農者の状況等を考慮したものである。また既存のぶどうに係る集出荷施設・直売所・観光農園はすべて半径2km以内にあり、連携しやすい環境である。育苗機能については、今回整備するハウス内で新植及び育苗を行う計画である。
施設の利用や運営等に当たって、女性参画への配慮や促進のための取組がなされているか	○	ハウスを団地化することで、農作業や移動が効率的になる。また散水や施肥を自動化し、女性でもたやすく作業ができるよう省力化を進める計画である。
事業費積算等は適正か		
過大な積算としていないか	○	事業規模は、既存生産者や近年の新規就農者の状況、確保可能な農地の状況、市場におけるぶどうの販売状況等からみて適切なものとしている。 また、整備するハウスは、島根県農業技術センターが開発し(株)フクダが「フクダ改良Ⅱ型」として商品化した低コスト農業用単管ハウスである。事業費については、業者から徴取した見積内容を検討し、資材・施工価格等が市場価格と比較して適正であると判断し積算している。 (島根県農業技術センターが開発した屋根型パイプハウスで、整備単価は10,000千円/10a(加温設備、灌水設備は除く)であり、同規模のハウスと比較して1割以上のコストダウンとなっているため、適正と判断した。)
建設・整備コストの低減に努めているか	○	上記のとおり低コストハウスを導入し事業費を低減する。

	<p>付帯施設は交付対象として適正か(必要性はあるか、汎用性の高いものを交付対象としていないか)</p> <p>備品は交付対象として適正か(汎用性の高いものを交付対象としていないか)</p>	○	加温設備、養液栽培設備は、いずれも栽培に必要な設備であり、汎用性はない。
		○	備品は計画していない。
	整備予定場所は、集客の立地性、農林漁業者の利便性等、施設の設置目的から勘案して適正か	○	本事業は、ぶどう産地内の遊休農地にハウスを整備するものであり、生産者の利便性は高い。
	施設用地が確保されている又は確保される見通しがついているか	○	事業実施主体(農協)と農地所有者との間で貸借契約を行うことについて、農地所有者からは内諾を得ており、用地は確保できる。
	体験交流機能に加え宿泊機能を備えた施設を整備する場合には、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金実施要領の運用(平成19年8月1日付け19企第102号農林水産省大臣官房長通知)に定める基準を満たすとともに、その必要性について十分に検討しているか	—	該当無し
	交付対象は施設別上限事業費及び上限規模の範囲内か		
	処理加工・集出荷貯蔵施設については、「強い農業づくり交付金実施要領」(平成17年4月1日付け16生産第8262号農林水産大臣官房国際部長、総合食料局長、経営局長通知)別記Ⅱの第1の2の(4)のウの基準に照らし適正であるか	—	該当無し
	地域間交流拠点については、延べ床面積㎡当たり29万円以内かつ延べ床面積1,500㎡以内であるか	—	該当無し
	地域連携販売力強化施設については、以下の内容を満たすものとなっているか		
	地域内外又は地域間の相互連携の促進のための取組がなされているか	—	該当無し
	生産者の販売力強化・ブランド化等に資するために必要な施設であるか	—	該当無し
	1年を通して運営されるものであり、継続的に雇用と所得を生み出す施設であるか	—	該当無し
	6次産業化や女性参画の促進に寄与する施設であるか	—	該当無し
	事業実施主体の負担(起債、制度資金の活用等を含む)について十分検討され、適正な資金調達計画と償還計画が策定されているか	○	事業実施主体(いずれも農業協同組合(H27.3~「 <b>島根県農業協同組合</b> 」))の理事会において、事業計画・資金調達計画の承認を得ている。 なお収支計画を策定しており、中小企業診断士による経営診断を受けている。

<p>入札方式は一般競争入札又はこれと同等の競争性のある契約方式によるなど適切なものとなっているか。一般競争入札に付さない場合は、その理由は明確か</p>	<p>○</p>	<p>入札方式は一般競争入札による。一般競争入札に付さない場合についても、出雲市の入札に関する取扱い(「出雲市入札執行規程」及び「出雲市交付補助金利用による事業のための入札参加資格等審査要綱」)に基づいた入札を行う。 (<del>出雲市の入札に関する取扱い(「出雲市入札執行規程」及び「出雲市交付補助金利用による事業のための入札参加資格等審査要綱」)に基づいた入札を行う。一般競争入札に付さない場合についても、その理由は市の規程に準じたものとする。</del>)</p>
<p>整備後において施設の管理・運営が適正に行われる見込みであるか</p>		
<p>維持管理計画は適正か(施設の管理・更新に必要な資金は検討済みか)</p>	<p>○</p>	<p>事業実施主体と利用者との間で、リースの目的・期間・利用料・利用料の納入期限及び方法・目的外使用の禁止等の事項を明記したリース契約を締結し、適切に管理する。なおリース料は、施設の維持管理費を含めた適正な料金を設定する。また事業実施主体は「施設利用管理規程」を定め、利用者とともに施設の適正な維持管理に努める。</p>
<p>収支を伴う施設等にあつては収支計画を策定しているか。また、事業費が5,000万円以上のものについては経営診断を受け、適正なものとなっているか</p>	<p>○</p>	<p>収支計画を策定しており、中小企業診断士による経営診断を受け、問題ない旨の診断報告書を受け取っている。</p>
<p>他の事業との合体施行等の場合、事業費の按分等が適正に行われているか</p>	<p>○</p>	<p>他事業との合体施行ではない。</p>
<p>他の事業への重複申請(予定も含む。)はないか(ある場合には、事業名を記載すること。)</p>	<p>○</p>	<p>他事業への重複申請はない。</p>

(別紙) 1. 過去の活性化計画の目標達成状況

計 画		目 標 達 成 状 況																																																											
<table border="1"> <tr> <td>計画名</td> <td>出雲西地区活性化計画</td> </tr> <tr> <td>計画期間</td> <td>H20～H23</td> </tr> <tr> <td>目 標</td> <td>定住等の促進に資する基盤整備の円滑化</td> </tr> </table>		計画名	出雲西地区活性化計画	計画期間	H20～H23	目 標	定住等の促進に資する基盤整備の円滑化	<table border="1"> <tr> <td>目標項目</td> <td colspan="5">事業実施後、区画整理事業着手までの年数</td> </tr> <tr> <td>目標年数</td> <td colspan="5">3年</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td colspan="5">3年</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td colspan="5">達成 (100%)</td> </tr> </table> <p>23年6月に農地整備事業(経営体育成型)出雲西地区に着手</p>						目標項目	事業実施後、区画整理事業着手までの年数					目標年数	3年					実績	3年					達成率	達成 (100%)																												
計画名	出雲西地区活性化計画																																																												
計画期間	H20～H23																																																												
目 標	定住等の促進に資する基盤整備の円滑化																																																												
目標項目	事業実施後、区画整理事業着手までの年数																																																												
目標年数	3年																																																												
実績	3年																																																												
達成率	達成 (100%)																																																												
<table border="1"> <tr> <td>計画名</td> <td>乙立いやしの里活性化計画</td> </tr> <tr> <td>計画期間</td> <td>H20～H24</td> </tr> <tr> <td>目 標</td> <td>① 交流人口の増加 ② 滞在者数及び宿泊者数の増加 ③ 地域産物の販売額の増加</td> </tr> </table>		計画名	乙立いやしの里活性化計画	計画期間	H20～H24	目 標	① 交流人口の増加 ② 滞在者数及び宿泊者数の増加 ③ 地域産物の販売額の増加	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th colspan="2">目標①</th> <th colspan="2">目標②</th> <th colspan="2">目標③</th> </tr> <tr> <th colspan="2">交流人口の増加</th> <th colspan="2">滞在者数及び宿泊者数の増加</th> <th colspan="2">地域産物の販売額の増加</th> </tr> <tr> <th></th> <th>交流人口(人)</th> <th>増価率(%)</th> <th>滞在者数及び宿泊者数(人)</th> <th>増価率(%)</th> <th>販売額(千円)</th> <th>増価率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画期間前実績(H15-H19)</td> <td>778,000</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>-</td> <td>27,500</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計画期間目標(H20-H24)</td> <td>800,000</td> <td>2.83</td> <td>5,000</td> <td>499.90</td> <td>32,340</td> <td>17.60</td> </tr> <tr> <td>計画期間実績(H20-H24)</td> <td>681,000</td> <td>-12.47</td> <td>7,494</td> <td>749.30</td> <td>22,826</td> <td>-17.00</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td colspan="2">未達成 (-440.6%)</td> <td colspan="2">達成 (149.9%)</td> <td colspan="2">未達成 (-96.6%)</td> </tr> </tbody> </table>						目標項目	目標①		目標②		目標③		交流人口の増加		滞在者数及び宿泊者数の増加		地域産物の販売額の増加			交流人口(人)	増価率(%)	滞在者数及び宿泊者数(人)	増価率(%)	販売額(千円)	増価率(%)	計画期間前実績(H15-H19)	778,000	-	0	-	27,500	-	計画期間目標(H20-H24)	800,000	2.83	5,000	499.90	32,340	17.60	計画期間実績(H20-H24)	681,000	-12.47	7,494	749.30	22,826	-17.00	達成率	未達成 (-440.6%)		達成 (149.9%)		未達成 (-96.6%)	
計画名	乙立いやしの里活性化計画																																																												
計画期間	H20～H24																																																												
目 標	① 交流人口の増加 ② 滞在者数及び宿泊者数の増加 ③ 地域産物の販売額の増加																																																												
目標項目	目標①		目標②		目標③																																																								
	交流人口の増加		滞在者数及び宿泊者数の増加		地域産物の販売額の増加																																																								
	交流人口(人)	増価率(%)	滞在者数及び宿泊者数(人)	増価率(%)	販売額(千円)	増価率(%)																																																							
計画期間前実績(H15-H19)	778,000	-	0	-	27,500	-																																																							
計画期間目標(H20-H24)	800,000	2.83	5,000	499.90	32,340	17.60																																																							
計画期間実績(H20-H24)	681,000	-12.47	7,494	749.30	22,826	-17.00																																																							
達成率	未達成 (-440.6%)		達成 (149.9%)		未達成 (-96.6%)																																																								
<table border="1"> <tr> <td>計画名</td> <td>出雲地区農業活性化計画</td> </tr> <tr> <td>計画期間</td> <td>H21～H24</td> </tr> <tr> <td>目 標</td> <td>地域産物(飼料米)の販売量の増加</td> </tr> </table>		計画名	出雲地区農業活性化計画	計画期間	H21～H24	目 標	地域産物(飼料米)の販売量の増加	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th colspan="2">目標:地域産物(飼料米)の販売量の増加</th> </tr> <tr> <th>販売量(トン)</th> <th>増価率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画期間前実績(H17-H20)</td> <td>42.9</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計画期間目標(H21-H24)</td> <td>3,770</td> <td>8,687.90</td> </tr> <tr> <td>計画期間実績(H21-H24)</td> <td>5,110</td> <td>11,811.45</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td colspan="2">達成 (136.0%)</td> </tr> </tbody> </table>						目標項目	目標:地域産物(飼料米)の販売量の増加		販売量(トン)	増価率(%)	計画期間前実績(H17-H20)	42.9	-	計画期間目標(H21-H24)	3,770	8,687.90	計画期間実績(H21-H24)	5,110	11,811.45	達成率	達成 (136.0%)																																
計画名	出雲地区農業活性化計画																																																												
計画期間	H21～H24																																																												
目 標	地域産物(飼料米)の販売量の増加																																																												
目標項目	目標:地域産物(飼料米)の販売量の増加																																																												
	販売量(トン)	増価率(%)																																																											
計画期間前実績(H17-H20)	42.9	-																																																											
計画期間目標(H21-H24)	3,770	8,687.90																																																											
計画期間実績(H21-H24)	5,110	11,811.45																																																											
達成率	達成 (136.0%)																																																												

2. 目標未達成項目に係る対応状況

	乙立いやしの里	
	目標① 交流人口の増加	目標③ 地域産物の販売額の増加
計画期間中の目標達成に向けた取組みについて	<p>○計画区域内の景勝地である「立久恵峡」の環境整備事業（ハード・ソフト両面）を市が年次的に行い、利便性の向上とともに情報発信を強化し、観光客数の増加を図ってきた。</p> <p>H21：遊歩道沿いの公衆トイレ整備  H22：「出雲観光ガイド」リニューアルに伴う立久恵峡特集の発行  H23：景観向上のための枯損樹木伐採  H24：遊歩道破損個所の改修</p> <p>〃：地元住民による「立久恵峡観光ボランティアガイドの会」立ち上げ  〃：「立久恵峡ウォッチング」イベント開催（6年ぶりに再開）  〃：首都圏向け誘客情報冊子で「立久恵峡温泉」を特集し4万部を配布。</p> <p>※当該事業で整備した「わかあゆの里」と立久恵峡は約500mの至近距離にあり、今後も目標達成に向けて関連付けた事業を行う計画である。</p> <p>○「わかあゆの里」オープン後は、自然観察会・キャンプ体験等のイベントを開催し、入り込み客数の増加を図ってきた。</p> <p>H23.5.「わかあゆの里」オープン  H23～H24：鮎のつかみどり、子どもキャンプ体験等のイベントを、集客数増が見込める夏季を中心に開催。</p> <p>○乙立地区の無形文化財である「乙立神楽」に関する情報、上演スケジュール等を市のホームページに掲載し、来訪を促進した。</p>	<p>○H24に、市・地元住民・観光協会・旅行会社の共同による「乙立修行の里協議会」を発足させ、乙立地区の農産物を利用した農業体験プログラム（そば打ち+陶芸体験コース、ゆず収穫+調理体験コース等）の実施により、地域産物のPRを図っている。</p> <p>○地元農産物を使用した加工品（ゆずポン酢・塩ダレ、ゆず味噌）を開発し、販売額の増加を図っている。</p>
目標が未達成となっている要因について	<p>○活性化計画期間はH20～24年度であるが、当該事業による「わかあゆの里」整備年度は（繰越予算対応となったことから）H21～22年度である。整備場所はH18豪雨による洪水で被災していることから、施設整備前の測量調査・地質調査に期間を要し、施設は23年5月に開設している。</p> <p>その結果、5か年の計画期間中、事業効果発現年度は後半の2か年（H23,24）で、前半3か年は拠点となる施設が無い中での取組みとなり、目標達成が遅れている。</p>	<p>○左記と同様の理由から、乙立地域への入り込み客数が減少し、産直市場の来客数の伸び悩みが販売額の低迷につながっている。</p> <p>○出雲市全体の状況として、平成22年～24年は冬季の豪雪、春季の強風、夏季の猛暑・台風等の影響を受け、主要な野菜・果樹の出荷量が全体的に低下している影響がある。</p>

	<p>○H21に山陰道出雲インターチェンジが開通し、山陽・関西方面からの国道184号線利用客が減少したことで、乙立地域への入り込み客数が減少した影響が考えられる。</p> <p>○H21年7月の長雨及び7～9月の低温（冷夏）、またその影響を受けた紅葉劣化により、最も来客が見込める夏～秋季の観光客数が伸びなかった。H22～24の夏季は猛暑であり、日中の観光客数が低迷した。</p> <p>○H21以降の世界規模の景気低迷、またH23の東日本大震災により、全国的に旅行需要が縮小している影響がある。</p>	
<p>今後の目標達成に向けた取組み方針について</p>	<p>○「わかあゆの里」を拠点とした取組みを強化する。具体的には、管理棟の売店コーナーにおいて、新たに開発した農産物加工品の販売を開始し、商品ラインアップの充実を図る。</p> <p>※整備計画当初は直売所棟を建設する予定であったが、国との協議のうえ直売所機能を管理棟に集約することで低コスト化を図った。</p> <p>※開設当初は生鮮野菜の販売を行っていたが、若年層の来客者からは敬遠されロスが多く、出荷量も安定しなかったために中止した。今後は加工品を扱うことで、安定した出荷量と低廉な販売コストが見込まれる。</p> <p>○市では市内観光の周遊力強化を推進しており、乙立地域及び隣接する佐田町をセットでゾーニングのうえ、「出雲縁結び温泉郷」を統一コピーとして全国発信し、入り込み客数の増加を図る。</p>	<p>○「わかあゆの里」において、地元特産の「ゆず」を使用した加工品等を主力に販売し、若年から老年層まで幅広い集客を図り、販売額増加を目指す。</p> <p>○JAとの協力により、地元産農産物を使用した加工品の開発・販売を一層進めていく。</p>
<p>取組みの確実性について</p>	<p>○「わかあゆの里」の入り込み客数は増えており、当該施設の機能を重点的に強化することで、少ないコストで有効な効果が得られるものと考えている。</p>	<p>○「わかあゆの里」の地域産物販売機能を強化することで、有効な効果が得られるものと考えている。</p> <p>○地元団体とJAは連携・協力体制が取れており、他地区と差別化したブランド化について具体的な検討を始めている。</p>